

# 卒業制作 企画書

クラウドファンディング形式による権利の売買



# 自己紹介

---

名前 前川航星

年齢 19歳

所属 法政大学 デザイン工学部 一年生

好きなもの

犬 数学 ゲーム

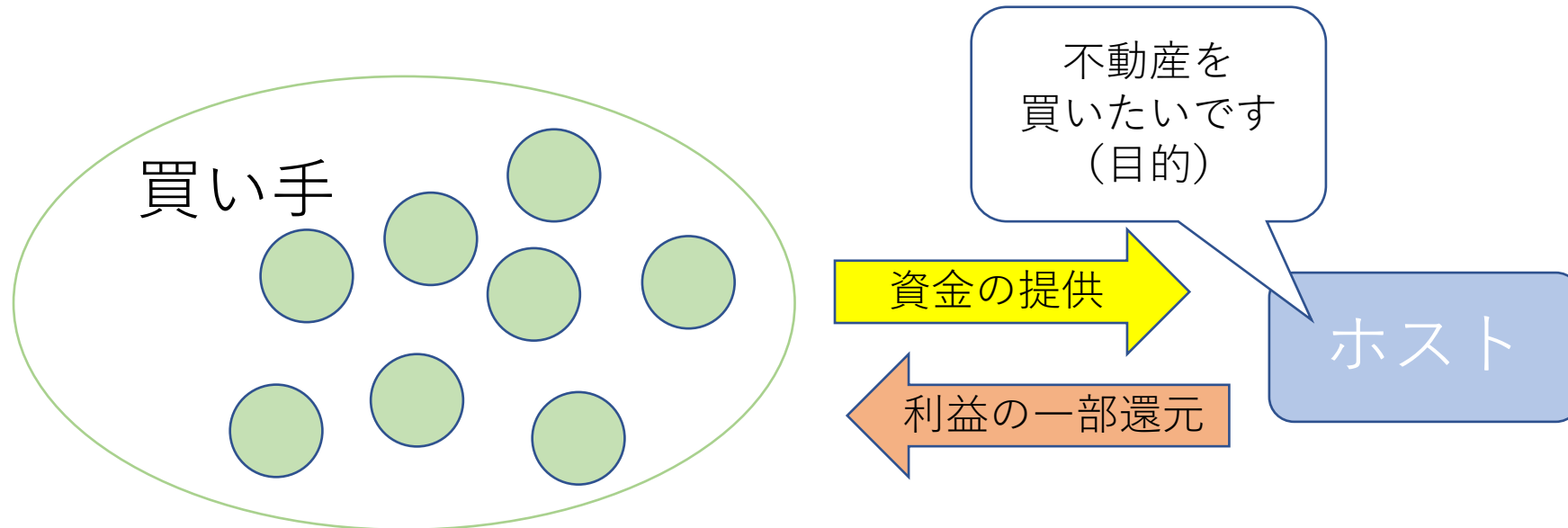
嫌いなもの

怒りっぽい人 大きな音

# 従来のクラウドファンディングの仕組み

ユーザーはホストと買い手に分かれる。  
ホストは自分の目的を提示し、それに対して複数の買い手が資金を提供する。

例



# 従来のクラウドファンディング会社の仕事

一つの資金調達につき必要な仕事が

目的が適切であるかの審査

ホストが信頼に足るかの審査

ホストが適切に資金を使っているかの監視

潤滑な契約の手助け

ウェブページ制作

プロモーション戦略を立てる

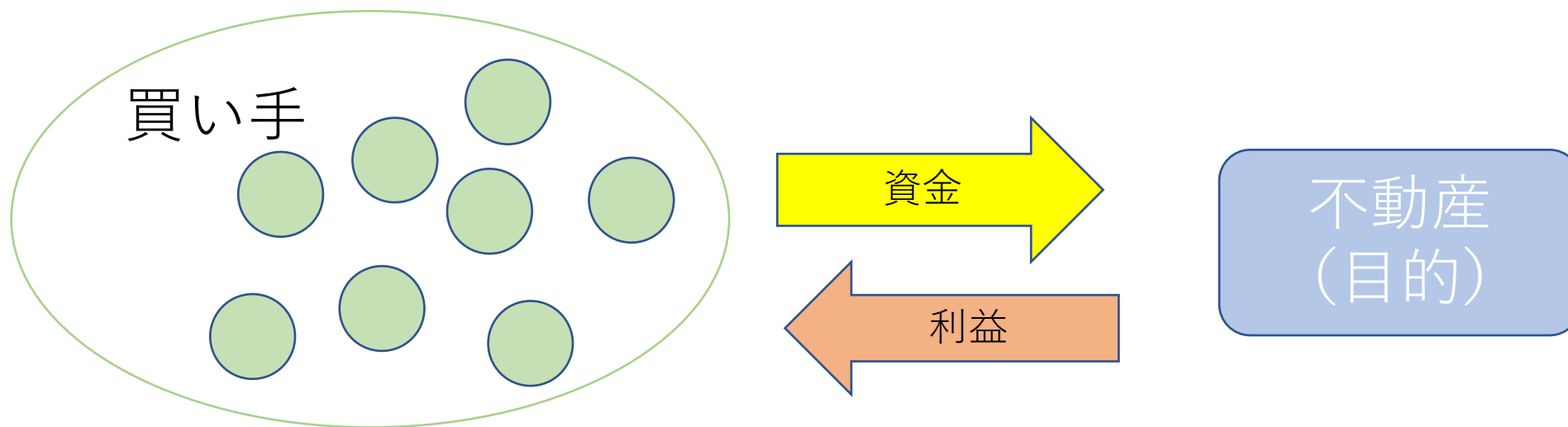
# 疑問

ホストって必要ですか？

# ホストがいない場合の クラウドファンディングを考える

大きな売りものをしたい人、会社が出品し  
それを欲する複数のユーザーがお金を出す  
より多くお金を払った人が何かしらのメリットを持つ

例



# ホストがいない影響

## メリット

- ホストの審査、監視の必要がなくなる
- ホストに払う手数料がなくなる
- 目的の値段を販売者が決められる

## デメリット

- 買い手に代表者がいないと困る場合がある
- 売り手に直接出品してもらう必要がある

# ホストのいないクラウドファンディングに合うものは

何かしらに対する決定権

株のような形式で、多くお金を出資すれば

多くの票を持てるようにする

また、代表者がいなくても特定の決断ができる

利益を生み出す仕組み

例に挙げた不動産等

しかし、ものによっては代表者が必要

（不動産の場合、管理会社で代用可能？）



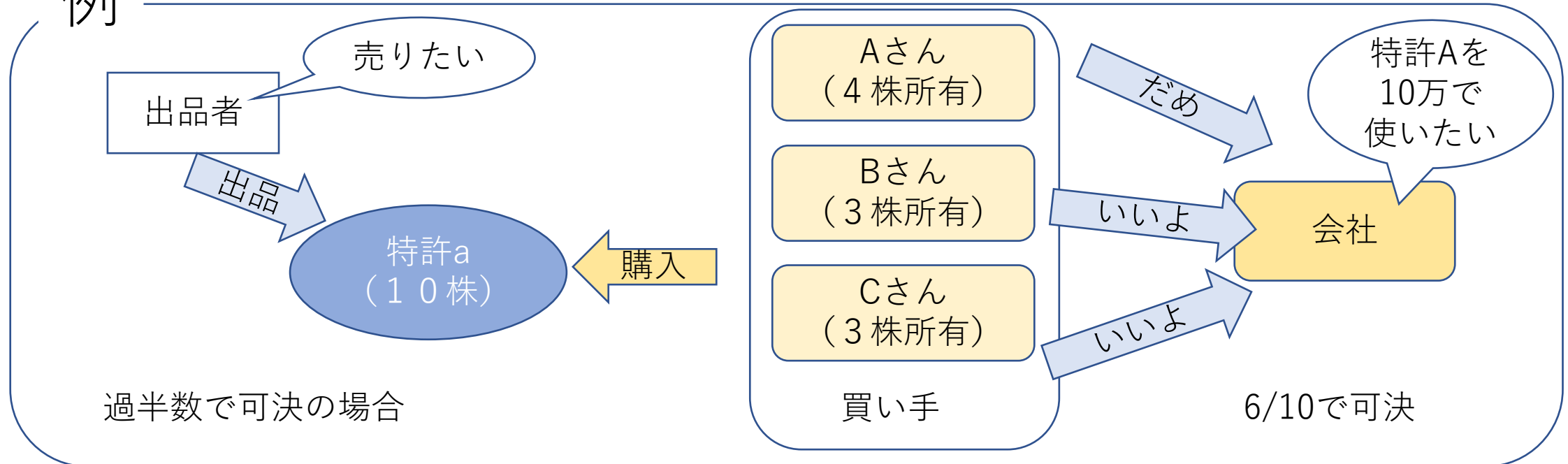
今回やりたいこと

# 知的財産権に対する決定権

特許や著作権の使用許可や放棄などを多数決で決め、  
それに対する投票権を買う（株と呼ぶ）

特許は持っているだけで維持費がかかるため出品の期待ができる

例



# 株の初期分配方法

特許aを出品します  
全部で1000株です  
内100株は自分が持ちます  
出品から配布まで1週間  
購入希望者を募ります

出品者

出品

特許a

出品されてから  
1週間のうちの買い手

Aさん

5万円

Bさん

10万円

Cさん

3万円

出品から1週間後

$$(1000-100)/(3+5+10)=50$$

Aさんに250株  
Bさんに500株  
Cさんに150株  
が配られる。

# その他

株は配布された後値段は変動するようにして売り買いできるようにする

特許の場合最大20年で使用期間が切れるので特許がなくなったらその株が消えるようにする

株を持っていることでできることは特許を使えることではなく、特許を使いたがる人に対して許可するかどうかの投票権

特許を使わせて得た利益は株を多く持っているユーザーに多く配られる